

大学は学問の場です。学問は、先人の知的成果の上に新たな成果を積み重ねていく営みです。そこでは、一人ひとりが考えたことや成し遂げたことに価値を置きます。学問の場にいる私たち皆が、自分および他人の知的な努力とその成果を敬い、日々誠実に学問をすることが、学術の健全な発展を促すのです。もしも学問上の不正行為があったら？…その人が罰則を科され、自分の価値を損なうだけではなく、学術の発展を妨げたり、大学という社会的存在の価値を損ねたりします。

名古屋大学は構成員一人ひとりの知性を信じ、学術憲章において「名古屋大学は、構成員の自律性と自発性に基づく探究を常に支援し、学問研究の自由を保障する」と述べています。構成員である私たちには、以下の事柄を理解し、実践することが期待されています。

名古屋大学「学術憲章」URL → <http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/declaration/>

基本原則

自分の知性を信じる

自ら考え、自ら動く

自分が成し遂げたことや
獲得した能力を
ありのままに開示する

自分の知性を
さらに伸ばすための
努力をする

先人の知を継承し、
新たな知を追求する

1 学問をするための素養と技能を身につける

学問をするには相応の素養と技能が必要です。批判的に読む、論理的に書く、情報を収集する、統計的に解析する、現象・実物などから本質的な事柄を読み取る、明快な発表資料を作る、有効な議論をするなどです。

これらの素養と技能があると、大学で課されるレポートや筆記試験や成果発表に楽に取り組むことができます。

☐ 書籍やセミナーを活用して、学問の技能を磨いていきましょう

例：全学教育科目基礎セミナー、附属図書館 講習会

例：近田政博(2009)『学びのティップス 大学で鍛える思考法』玉川大学出版部。

井下千以子(2014)『思考を鍛える レポート・論文作成法』第2版、慶応義塾大学出版会。

佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦(2012)『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門(第2版)』慶応義塾大学出版会。

戸田山和久(2012)『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』NHKブックス。

2 学問をする上での決まりごとや作法を学ぶ

不正を働く意図はなかったのに実は不正行為だったという場合があります。学問の世界には様々な決まりごとや作法があるため、それらを知る必要があります。

また「学問の自由」という言葉がありますが、何をするのも自由という意味ではありません。人々の権利、動物の福祉、環境保全・負荷軽減などの基本的倫理はしっかり守りましょう。

☐ 本やウェブサイトから知識を得ましょう

例：「名古屋大学新入生のためのスタディティップス」
URL → <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/stips/>

☐ 名古屋大学規定の研修を受けましょう

例：情報セキュリティ研修、盗用防止オンラインコース

☐ 研究室見学や研究活動体験をしてみましょう

例：名大祭 研究室公開

3 課題や期末試験の準備は早めに取りかかる

期末試験、レポート提出期限、成果発表などの日が迫っているのに準備が追いついていない場合に不正が起りやすくとされています。良い成績を取りたい、単位を落とさたくないといった気持ちが先走り、いわゆるコピペやカンニングに走ったり、不完全な引用・参照が行われたりするので。

単位や学位の取得は、学習の成果が一定水準に達していることの証明です。その過程が真正なものと社会に信じてもらえていればこそ、単位や学位が価値を持ちます。

☐ 自分が大学で学ぶ意味を思い出しましょう

☐ 学習スケジュールは、
早めに・時間に余裕をもたせて・タスクを細分化して、
立てましょう

意図しない不正行為が起りやすいのが、先行文献を引用・参照するときです。

引用(または直接引用)とは、先行文献から文章の一部や図などを転載することです。転載部分に引用符などの引用とわかる目印を示すとともに、先行文献の書誌情報を別途記します。参照(または間接引用)とは、先行文献の内容を自分なりに解釈し直して、自分の言葉や図にして提示することです。当該箇所はその旨を記し、先行文献の書誌情報を別途記します。

引用例) 不老(2015, p.8)は「……」と述べている。

参照例) ……という研究も存在する(千種, 2016, p.39-42)。

文献記載例) [参考文献一覧]

編著訳者名(発行年)『書名』出版社。

参照の形式を採りながら実は原典とよく似ている場合には、その程度により不正(盗用/剽窃)と見なされることがあります。図書館のセミナーやMei-writing、論文やレポートの書き方に関する書籍を活用して、先行文献を正しく参照できるようにしておきましょう。

課題や学位論文においては、教員から指定された様式に従って引用情報と参考文献の記載を行います。指定がなければ、書籍やマニュアルから1様式を選び、全編にわたってその様式に従ってください。

先行文献を引用・参照するとき

4 「してはならないこと」を確認する

学問上の不正行為は、意図したかどうかによらず、認定されます。他者のそのような行為に加担することも不正行為となります。不正行為の例をいくつか見ておきましょう。

不正行為の例

- 他者の成果やアイデアを、適切に引用・参照したり参考文献表記をしたりせずに利用する(盗用/剽窃)
- 行っていない実験や調査のデータをでっちあげる(捏造)
- 得られたデータを都合よく改変する(偽造)
- 他者のレポートを写す、他者に写させてあげる
- ある授業で提出したレポートの内容を、別の授業のレポートに断りなく流用する(自己盗用)
- 筆記試験においてカンニングをする、させる
- 書類の署名・捺印などを偽造する
- 学術的資料や設備などを意図的に汚損・破壊する

※不正行為の疑義があるときは、名古屋大学所定の調査を経て、懲戒等の措置が決定されます。

仲間同士で学び合えることは、大学という学問の府ならではの醍醐味です。仲間との議論を通じて、より深く考えるきっかけを得ることもあるでしょう。積極的に取り入れたい学習法の1つです。

ただし、自分の成果と友人の成果との境界がぼやけやすいという性質に留意が必要です。たとえば自分の書いたレポートそのものを友人に読ませてあげたり、概略を一方的に教えたりすると、友人はあなたの成果に引きずられてしまうかもしれません。あくまでも対等に、課題の論点を出し合って議論したり、関連する文献を紹介し合ったりするようにしましょう。

なお、授業内で協同学習のルールが設定されている場合にはそれに従ってください。

協同して学ぶとき

5 判断に迷うときは、相談を

明らかに不正とわかるものもありますが、不正かどうかの線引きが難しい場合もあります。原則に立ち返って考えてみても、判断に迷うことがあるかもしれません。そんなときは授業担当教員やTAに尋ねてみましょう。また、学内には相談に乗ってくれる窓口がありますので、活用してみてください。

- 学年担任、各部局の教務係、附属図書館(学習相談)、学生相談総合センターなどに相談してみましょう

参考

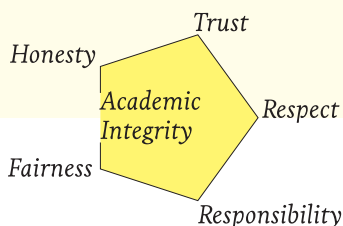
研究不正と公正研究

名古屋大学では、研究上の不正行為を「研究の申請、実施、報告又は審査における故意の捏造、改ざん、盗用のこと」と定義しています。

捏造とは「データ又は実験結果を偽造すること」、改ざんとは「研究試料・機材・研究過程に操作を加え、又はデータ若しくは研究成果を変え、若しくは省略することにより研究内容を正しく表現しないこと」、盗用とは「他人の研究内容又は文章を適切な手続きを経ることなしに流用すること」という説明もされています。

さらに「単に不正行為をしないというだけでなく、研究の申請、実施、報告、審査のすべてにおいて、最大限の知的誠実さを堅持し、注意深い責任ある態度で」研究を遂行しなければならないとし、これを「公正研究」と名付けています。

研究活動において「してはならないこと」をしないことは当然として、専門家としてよりよい活動をしようとすることの重要性が、国内外において共通に認識され、実践が進められています。



名古屋大学構成員としての誇りと責任を持って、自由闊達に学問に取り組みましょう

本リーフレットは本文中に記載の文献および以下を参照して作成しました

- 米国科学アカデミー編・池内了訳(2010)『科学者をめざす君たちへ—研究者の責任ある行動とは(第3版)』化学同人。
- Massachusetts Institute of Technology “What is Academic Integrity? | Academic Integrity at MIT” [online] (<https://integrity.mit.edu/> 最終アクセス'16.2.29).
- 文部科学省(2014)「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(平成26年8月26日文部科学大臣決定)」 [online] (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf 最終アクセス'16.2.29).
- 名古屋大学「名古屋大学における公正研究遂行のための基本方針」 [online] (http://www.nagoya-u.ac.jp/research/ethic/ethic/post_5.html 最終アクセス'16.2.29).
- NC State University, Student Conduct “Academic Integrity | Overview” [online] (<https://studentconduct.dasa.ncsu.edu/academic-integrity-overview/> 最終アクセス'16.2.29).
- 日本学術会議(2013)「声明 科学者の行動規範—改訂版—」 [online] (<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-s168-1.pdf> 最終アクセス'16.2.29).
- 日本学術振興会(2015)「科学の健全な発展のために」編集委員会『【テキスト版】科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 [online] (<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf> 最終アクセス'16.2.29).
- The Center for Academic Integrity (1999) “The Fundamental Values of Academic Integrity” [online] (<http://www.academicintegrity.org/icai/assets/FVproject.pdf> 最終アクセス'16.2.29).
- The Higher Education Academy JISC Academic Integrity Service “Supporting academic integrity – Approaches and resources for higher education” [online] (https://www.heacademy.ac.uk/sites/default/files/supportingacademicintegrity_v2_0.pdf 最終アクセス'16.2.29).
- University of Toronto, Faculty of Arts & Science, “What is Academic Misconduct? - Office of Student Academic Integrity (OSAI)” [online] (<http://www.artsci.utoronto.ca/osai/The-rules/what-is-academic-misconduct/> 最終アクセス'16.2.29).